徒然日記

介護老人保健施設アルファ俊聖　安　勇喜

～人との繋がり～

私事ですが、今年の3月に長女が生まれました。3人目で待望の女の子ということもあり、小さな成長も見逃すまいと私のスマートフォンの中は長女の写真で溢れており、日に日に成長していく子供達の姿を見ることが活力の源になっています。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、私たち家族も不要不急の外出をなるべく控え、県外に住んでいる親に会うことや、成長の節目に親族で集まることなどについては出来る限り自粛しておりました。コロナ禍でなければ、子供が生まれたことで増えるはずの成長の記録や催しが少なくなっていること、親族含めた人との関わりが希薄になっていることを寂しく感じております。直接会うことができない代わりに、子供たちは祖父母に手紙を書いたり（時に字になっていないこともありますが）、タブレットで一日の事を報告したりするなど、様々な形で楽しみながら繋がりを持つようにしております。

現在、老健施設においても、面会制限により入居者とご家族との関わりや繋がりが少なくなっている中で、いかにご家族との繋がりを提供できるのか、私たちに課せられた部分は大きいと感じており、感染症と共存した取組みについて考えていきたいと思います。